

### 309 進行性全身性硬化症 (PSS) の心筋病変：タリウム心筋 SPECTによる検討

松原 昇、石田良雄、谷 明博、横山裕司、北島 顕、鎌田武信、中村幸夫\*、久住佳三\*、木村和文\*、小塚隆弘\* (大阪大学第一内科、同中央放射線部\*)

PSSの左室機能低下例では、Dipyridamole(Dip)負荷心筋シンチグラフィでの Tl-201 washout ratioの低下が心筋広範囲に及んでいることを、前回報告した。今回は SPECTを用い、左室駆出率(LVEF)が正常 ( $64 \pm 3\%$ ) の PSS 6例 (女性、 $52 \pm 8$ 才、40-65才) を対象として Dip負荷を行い、心機能低下が出現する以前に、早期に心筋 Tl-201分布異常が観察されるかについて検討した。この結果、正常所見の 2例を除き、4例に TD (2例)、PD (2例)、RR (1例) の各異常所見を認めた。以上より Dip負荷心筋 SPECTは、PSSの心筋障害あるいは冠血流障害の早期検出に有用と考えられた。